# 社会教育委員だより No.38

令和７年４月１日　山北町社会教育委員会議
（山北町教育委員会生涯学習課内）

## 「民俗文化財の保護・継承について」山北町教育委員会に「答申」を行いました

令和５年５月に諮問を受けた「民俗文化財の保護・継承について」の課題に対し、令和５年度・６年度の約２年間に渡り研究に取り組んだ内容を３月 24 日に行われた定例教育委員会において、具体的な提言を含めて答申しました。

私たち社会教育委員にとって、この「民俗文化財の保護・継承について」という課題はかなり難しい取り組みでした。

その難しさの一つが急速に進みつつある「少子化・高齢化・過疎化」という問題でした。今年２月下旬の新聞で令和６年度に山北町で生まれた子どもの人数がわずか 11 人という報道がありましたが、それを如実に現わしていると思います。

このような状況が続くとなると、伝統的な行事の保護・継承どころの問題ではなくなってきます。

もう一つの難しさは「地域住民の共同体意識の変化」です。昭和・平成・令和と時代を経るに従って情報化社会が一段と加速し、極言すれば指先の操作だけで世の中が動くようにもなってきました。都会だけではなく地方における地域社会でも、人と人との繋がりが希薄になってきたように感じます。これは何も山北町だけの問題ではありませんが、それぞれの地域に古くから伝わる行事の存続には、その地域で「共に生きる」「共に護る」という強い共通意識が必要だと考えます。

以上のような社会状況の現況を踏まえながら、社会教育委員会議での協議や検討を行うと共に、一般町民や小中高校生へのアンケート調査の結果に基づいて課題や今後の対応策等を吟味しました。その答申内容の概要は以下のようになっています。

### 「民俗文化財の保護・継承について」（答申）の概要

**（１）　町内の民俗文化財や古くから伝わる伝統的な行事等に対する認知度はそれなりに高いものの、大人も子どもも興味・関心の程度は低いため、対策が必要である。**

**（２）　少子高齢化、過疎化が進む中、各民俗文化財保存会共に次の世代へ引き継ぐことの不安を強く感じている。子どもや若い世代への対応が急務である。**

**（３）　町内の民俗文化財や古くから伝わる伝統的な行事等を維持するためには、備品や装飾品、衣装等の修理や更新が必要であり、その費用の捻出に苦労をしている民俗文化財保存会が多い。行政等からの補助金や助成金の積極的な増額等の検討が必要である。**

（４）　近年、地域社会の在り方や人々の価値観が大きく変化し、住民の共同体意識が希薄となっており、地域で一体感を味わえる機会が減少している。今一度「共に生きる」地域づくりが必要である。

（５）　町内の民俗文化財や古くから伝わる伝統的な行事等は、それぞれの地域や各民俗文化財保存会で維持管理・運営がなされており、地域や住民等の意識の変容に伴うさまざまな課題等に対応するために行政をはじめとする各関係機関や各民俗文化財保存会等による連携した組織体制が必要である。

「民俗文化財の保護・継承について（答申）」の表紙

## ～課題に対する「具体的な対応策」を提言しました。～

（概略を記述）

（１）　<u>民俗文化財を含め、伝統的な行事に対する興味・関心を高める。</u>

- PR方法の工夫　・・・　SNS等の活用、地域版情報誌、ポスターやチラシ
- 常設の展示スペースの設置　・・・　駅前商店街の空き店舗等の活用

（２）　<u>次の世代に向けた積極的なアプローチ。</u>

- 小中学校での「ふるさと学習」の実践、空き教室でのパネル等の展示
- 山北高校との連携や協働
- 伝統行事の体験会等の実施

（３）　<u>公演や維持・管理のための経費集めの工夫。</u>

- 助成金等の収支を明確化し町民の理解を得る
- クラウドファンディングの活用や関連グッズの販売等の工夫

（４）　<u>「共に生きる」地域社会の実現。</u>

- 地域の伝統行事を通しての一体感の体得
- 共同体意識の再構築
- 「よろこび、ふれあい、思いやり」の地域づくり

（５）　<u>「活動する」プロジェクトチームの結成。</u>

- 「伝統行事ボランティア」等も含め、町内の様々な組織を統合するプロジェクトチームを編成し、伝統行事を推進する母体とする。

（６）　<u>記録映像等の保存。</u>

- 伝統行事等の記録を映像として保存する。

答申の全文は、山北町のホームページ及び山北町役場２階生涯学習課窓口でご覧いただけます。

山北町ホームページ